



畜產植民地

COLONIA TICSAN

經營事務所所在地 Mirandopolis (k. 50 舊稱熊本移住地市街地) 手紙宛名 Caixa Postal, 224 - Araçatuba - L. N. O. B.

其の間に各地に建設された植
民地は實に枚挙し難い、然し
畜產を主眼としたものとして
何が故に有利確實と唱される
牧畜が勤勉、恰幅の我同胞に
無視された平、故國農業が有
畜農法が至つて少ないものに
原因するであらうが却て渡
伯同胞の大部分は早く儲け
る、出来るなら一獲千金
の農業よりも國を急ぐ性
格が牧畜業より遠ざかつたもの
のと思はる。牧畜業に畜產業
は、農業に比して特別の趣味
も必要であるが急いで行けり
いもので、放牧地は耕作地や
米作地擴張するやうに急が
出来るものでない。然し一度
放牧地を作れば殆んど永久に
然に繁殖する。確實に年々收
入があり、投資本に對して此
般は永住のもの少なく、轉々
と移動し、畜産だ、カンナ
だ、耕作、幸作、野菜作り
は殆ど稀である。

放牧地が出来、其より畜産は自
然に繁殖する。確實に年々收
入があり、投資本に對して此
般は永住のもの多く、轉々
と移動し、畜産だ、坎ナ
だ、耕作、幸作、野菜作り
は殆ど稀である。

畜史を回顧すれば、農業者の一
般は永住のもの多く、轉々
と移動し、畜産だ、坎ナ
だ、耕作、幸作、野菜作り
は殆ど稀である。

所謂掠奪農法を選びつゝ肥沃
地たる天然林地帯に移住して
居る、十年一ヶ所に居るもの
は殆ど稀である。

放牧地であった三角マスに
昔時我同胞が盛んに米作をし
た、借地料を互に高め唯大
面積に大米作をして収穫率の
高を唯一の樂みとし誇りと
いふ時代があった。今はその
時は各地に分散して唯後に
美しい牧草地を地主に造つて
やつたに過ぎない觀がある。

耕作が盛んに成了現時は亦
二十年の昔の三角マス地方
の米作者を同視しバストア
ム借地してある、アラタクア
ラ線、パウリスタ線、ドライ
ンセ地方の昔時の植民地は植
民者の移動し此に代つて伯
利國地に入り、却つて人や歐洲
移民が入り、却つて耕作を
農業をして生活を楽しんで居
る。

からして大壓迫を受け珈琲
豆を栽培し此に代つて伯利
主の最も苦難の時代である
珈琲耕地を置し流行の耕作
に移動すれば止むない事と
は作物が追々連作の結果收
を儲けた事に成る。

畜産の利益に就て

當植民地入植者に誤解して貰
ひたくない事は名が畜産植民
地であるから必ず急ぎバスト
アム借地してある。此れを販賣
する事が必要である事。必要
な条件と思はない事。必要
な条件は年々、生産額の減退、
勞働不足、珈琲の下落で耕作
人や歐洲移民が入り、却つて
耕作を置し流行の耕作に
からして大壓迫を受け珈琲
豆を栽培し此に代つて伯利
主の最も苦難の時代である
珈琲耕地を置し流行の耕作
に移動すれば止むない事と
は作物が追々連作の結果收
を儲けた事に成る。

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益

に

就

て

畜

産

の

利

益